

きゅうしょくだより

渋谷区立幡代小学校
校長 加納一好
主任栄養教諭 島崎聡子
令和7年1月8日

穏やかでよい1年になりますように

今年度も残すところあと3ヶ月となりました。生活リズムを整え、1日1日を元気に過ごしていきましょう。



市場の初競りは1月5日。豊洲市場でも早朝からたくさんの野菜や水産物を前に初競りが行われました。

初競りには、新年の商売繁盛の願いを込めて、たくさんの野菜や果物を舟形の器に盛り込んだ宝船が並びます。この「宝船」の前で新年の挨拶と一本締めで今年の競りが始まりました。

マグロの競り場には、たくさんのマグロを囲んで競り落とす声飛び交う様子が見られました。

一番マグロの高値などが話題になりますが、新春ならではの希望に満ちた活気ある風景です。

1月24日~30日は、全国学校給食週間です!

日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町（現：鶴岡市）の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。

戦後、子供たちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体「LARA（アジア救済公認団体）」から、給食用物資の寄贈を受けて、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、昭和25年度からは、冬季休業と重ならない1月24日~30日までの1週間を「全国学校給食週間」とすることが定められました。

全国学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割など、改めて考える機会にしてほしいと思います。

学校給食の移り変わりを見てみよう!

明治22年	戦後(昭和20~30年代)	現在
私立忠愛小学校で提供されたとされる給食。	支援物資の脱脂粉乳や缶詰、小麦粉などを使った給食。	地域でとれる旬の食材を取り入れ、郷土料理や行事食、世界の料理など、食育の教材となる給食。

給食委員会が考えた献立が登場します

「幡代小のみんなが、給食を食べて楽しく健康に過ごせるように」という目的をもって、給食委員会の担当班が開校記念日にちなんだ献立を考えました。

単に「食べたい料理」、「好きな料理」だけではなく、「お祝いだからお赤飯」、「和食だから野菜料理はこれがいい」、「この組み合わせだと調理は大変ですか?」と栄養面や給食室での作業工程も考えながら献立を立てていました。特に力を入れていたのはデザートです。ひな祭りの三色ゼリーをヒントに、幡代小を象徴する银杏の黄色、月桂樹の黄緑色をどんな食品でつくるか?検討に検討を重ねて、31日に登場します。

給食委員会の献立担当班による給食は、2月、3月にも登場します。子供たちが考えた献立を、給食室も心を込めて作ります。

